

ストレス軽減に向けた動物の癒し効果に関する研究ⅠⅠ ー高校生を対象とした動物に関する意識調査からの検討ー

○ 生嶋英明 (兵庫教育大学)

小林小夜子 (兵庫教育大学大学院)

【目的】高校生を対象とした動物に関する意識調査から、動物の癒しについて検討する。

【方法】調査対象者：A 県内の B 及び C 高校 (複数学科のある高等学校 1 年～3 年生) B 校 (458 名：男 201 名 女 257 名) C 校 (342 名：男 163 名 女 179 名) 調査時期：平成 25 年 10 月 1 日～翌年 1 月 31 日 調査内容：(a) 動物をイメージするとき、一番に思いつく動物は何か。(b) 今までに動物を飼ったことがあるか。(c) 今までに動物に癒されたと思った経験があるか。(d) ペットに対する態度測定尺度 [B 校のみ] (浅川・佐野・古川・東・森, 1999) 47 項目 4 件法で回答を求めた。但し、「ペット」を「動物」に変更し、項目番号 13 の「動物は大好きだ」を「動物は好きだ」に変更した。(e) 好きな動物がいますか。[C 校のみ]

【結果】(a) について、B・C 校 (730 名対象) で、結果については以下の通りであった (Table 1)。

Table 1 性別と一番に思いつく動物ベスト5						
順位	1位	2位	3位	4位	5位	合計
動物	イヌ	ネコ	ウシ	ライオン	ウマ	
性別	人数	143	39	25	20	8
	割合 %	19.6%	5.3%	3.4%	2.7%	1.1%
女	人数	232	56	22	11	5
	割合 %	31.8%	7.7%	3.0%	1.5%	.7%
合計	人数	375	95	47	31	13
	割合 %	51.4%	13.0%	6.4%	4.2%	1.8%

(b), (c) について、B 校 (423 名対象) を、「飼った経験の有無」「癒された経験の有無」と「性別」のクロス集計の結果より、男 ($\chi^2(1) = 34.74, P < .001$), 女 ($\chi^2(1) = 22.07, P < .001$) であった (Table 2)。さらに、「性別」×「飼った？」では、($\chi^2(1) = 3.77, P < .10$), 「性別」×「癒された？」では、($\chi^2(1) = 19.46, P < .001$) となり、ともに有意差が認められた。

Table 2 性別と飼った？・癒された？のクロス表					
性別		癒された？		合計	
		いいえ	はい		
男	飼った？	人数	33	12	45
		割合 %	18.3%	6.7%	25.0%
	はい	人数	33	102	135
		割合 %	18.3%	56.7%	75.0%
	合計	人数	66	114	180
		割合 %	36.7%	63.3%	100.0%
女	飼った？	人数	18	24	42
		割合 %	7.4%	9.9%	17.3%
	はい	人数	25	176	201
		割合 %	10.3%	72.4%	82.7%
	合計	人数	43	200	243
		割合 %	17.7%	82.3%	100.0%

(d) について、動物に対する態度測定尺度の因子分析を実施した。解釈可能な 4 因子が抽出され、順に、「癒し感」「親和感」「嫌悪感」「不慣感」と命名された。各下位尺度の α 係数により、この尺

度の高い信頼性が確認できた (第 4 因子を除く) (Table 3)。

Table 3 対動物態度測定尺度の因子分析 (因子負荷量 .35 以上、重みなし最小二乗法・プロマックス回転)					
変数 (質問項目)	因子1 癒し感	因子2 親和感	因子3 嫌悪感	因子4 不慣感	共通性
第1因子: 癒し感 ($\alpha = .94$)					
45 動物は人を素直にさせてくれる	.960	-.186	-.047	.054	.732
43 動物は心の安定剤になる	.841	-.072	-.023	.079	.649
41 動物はやさしい気持ちにさせてくれる	.778	.111	.014	.029	.738
46 動物は心のよりどころである	.770	-.020	-.070	.057	.614
39 動物は愛でいっぱい	.765	-.024	-.046	-.089	.587
29 動物は宝物である	.760	.046	.032	-.075	.596
42 動物は笑うことがある	.716	-.136	.003	.020	.392
38 動物は飼い主に近い	.708	.118	.067	-.119	.600
23 動物はいつも一緒にいてくれる	.650	-.047	.120	-.080	.341
22 動物は寂しさを紛らわしてくれる	.636	.089	.006	-.038	.489
33 動物は思いを伝えてくれる	.593	.157	-.039	.109	.547
35 動物は人の心を癒してくれる	.584	.208	-.050	.092	.599
35 動物は人の心を癒してくれる	.540	.375	.056	-.013	.690
第2因子: 親和感 ($\alpha = .69$)					
1 動物はかわいい	-.090	.944	-.003	.057	.783
13 動物は好きだ	.008	.775	-.104	.043	.682
4 動物は人の心を和ませてくれる	.152	.758	.087	-.064	.708
2 動物は家族の一員である	.193	.629	-.024	-.036	.622
第3因子: 嫌悪感 ($\alpha = .82$)					
40 動物はくさい	-.009	.090	.825	-.071	.587
28 動物はきかない	.056	-.114	.746	-.023	.588
24 動物はうるさい	.008	-.005	.653	.054	.460
8 動物は面倒くさい	-.028	-.039	.635	.169	.561
第4因子: 不慣感 ($\alpha = .60$)					
11 動物は自由がない	.030	-.038	.010	.697	.495
16 動物はかわいそう	-.044	.102	.104	.550	.362
因子間相関					
第1因子		.717	-.319	.062	
第2因子			-.390	.002	
第3因子				.444	

(e) について、C 校 (308 名を対象) で結果については以下の通りであった (Table 4)。

Table 4 性別と好きな動物ベスト5						
順位	1位	2位	3位	4位	5位	合計
動物	イヌ	ネコ	ウシ	ウマ	ウサギ	
性別	人数	44	22	10	8	2
	割合 %	14.3%	7.1%	3.2%	2.6%	.6%
女	人数	64	31	7	3	5
	割合 %	20.8%	10.1%	2.3%	1.0%	.6%
合計	人数	108	53	17	11	7
	割合 %	35.0%	17.2%	5.5%	3.6%	2.3%

【考察】(a)「動物のイメージ」と (e)「好きな動物」の両方で、ウシが 3 位に入った。牛乳が身近であること、農業高校での関わりが深いことが考えられる。今後普通校との比較が必要である。(b), (c) より、女子の方が男子より動物を飼った割合が高い傾向にあり、癒された経験は有意に高かったことから、青年期における母親への準備期とも考えられる。(d) で得られた因子は、大学生を対象にペットに対する態度を測定した浅川ら (2000) の結果と一致する。Table 1・4 の結果より、イヌ、ネコが半数以上占めていることから、青年期にある高校生・大学生が、ペットと動物を同じように捉えていることが示唆された。

【引用文献】浅川 潔子・佐野 智子・古川 雅文・東由佳・森田 恵子 (2000). ペット動物の癒しの効果に関する健康心理学的研究 兵庫教育大学研究紀要, 20, 115-119.